

## 2023 年行事予定

- 5月18日(木) 第92回教育セミナー  
～30日(土) (オンデマンド配信)
  - 6月23日(金) 日本臨床検査専門医会第  
～24日(土) 2回年次大会
  - 6月23日(金) 第2回理事会、生涯教育  
講演会、2023年度定時社  
員総会、第3回理事会
  - 7月3日(月) 第2回年次大会 WEB 開催  
～17日(月) (オンデマンド配信)  
7月頃 第4回理事会(委員会委員選任)
  - 7月27日(木) 第40回臨床検査振興セミ  
～8月10日(木) ナー (オンデマンド配信)
  - 8月2日(水) 子ども霞が関見学デー  
～3日(木)
  - 9月29日 第5回理事会
  - 11月11日(土) 臨床検査の日  
全国検査と健康展(11月～12月)
  - 11月16日(木) 第70回日本臨床検査医学会  
～19日(日) 学術集会(長崎出島メッセ)
  - 11月16日(木) 第6回理事会・2023年度一  
般社団法人日本臨床検査専門  
医会臨時社員総会・講演会
- 2024 年
- 3月23日(土) 第7回理事会

### 【目次】

p.1	巻頭言
p.2	臨床検査に育てられ、仲間と奮闘した半 世紀
p.3	事務局からのお知らせ
p.4	第40回臨床検査専門医認定試験結果、 「子ども霞が関見学デー」参加報告、臨床 検査振興セミナー開催報告、今年も全国 検査と健康展に協力いたします、広報 ネットワーク運営委員会：11月11日記 念日つなぎ委員会より
p.5	2023年度一般社団法人日本臨床検査専門 医会臨時総会・講演会のお知らせ、第70 回一般社団法人日本臨床検査医学会学術 集会(長崎)関連行事、2023年度行事予定、 2024年度 第3回年次大会、2023年度会 費振込のお願い、住所変更・所属変更 に伴う事務局への通知およびメールアドレス の登録のお願い、会員の声
p.6	編集後記

## 巻頭言

### 第70回日本臨床検査医学会学術集会を長崎で開催いたします

第70回日本臨床検査医学会学術集会 会長 柳原 克紀  
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・診断学分野(臨床検査医学)教授

このたび、第70回日本臨床検査医学会学術集会の会長を拝命いたしました長崎大学大学院医歯薬総合研究科 病態解析・診断学分野(臨床検査医学)の柳原 克紀です。伝統ある本学術集会を長崎の地で開催することとなり、大変光栄に存じますとともに身の引き締まる思いです。長崎での開催は、1992年(臼井 敏明会長)以来30年ぶりになります。

臨床検査は、幅広い領域にまたがり診断や治療を支えています。医学の進歩に伴い、様々な発展を遂げてまいりました。学術集会では、検査技術の進歩や新しい検査の開発を学び、その使い方を議論したいと存じます。近年においては遺伝子検査、質量分析ならびに人工知能(AI)などの新しい技術が臨床検査の分野でも活用されてきております。ポストコロナ時代を迎える今、これらの技術をいかに検査として構築し、発展させて行くか重要な時期に来ていると考えます。このような背景から今回のテーマを「未来を見据えた臨床検査」といたしました。

プログラムといたしましては、特別講演、海外招請講演、教育講演、第70回記念シンポジウム、スポンサーシンポジウム、シンポジウム、委員会企画、POCセミナー、Catch up セミナー、R-CPC、企業展示などを予定しております。今学術集会では新たにベーシックレクチャーやmeet the expert といったあたらしい企画にもチャレンジしており、これまで門外漢であった分野の基礎を理解する機会であったり、専門分野をもつ講師によるエッセンスの講演を短時間で学べる機会を提供できればと考えています。臨床検査専門医会の先生方、またこれから臨床検査専門医を目指す先生方にも役立てていただきたいと存じます。また皆様のご協力を賜り、これまでに多くの一般演題・ポスター演題の登録をいただいております。これらの企画を通じ、皆様と「これからの臨床検査」について時間を共有しディスカッションできる良い機会となりましたら幸いです。

昨年、西九州新幹線が開通し、リニューアルしたJR長崎駅に隣接した出島メッセ長崎が今回の学術集会の会場となります。本集会も現地開催を基本とし、一部オンデマンド配信をおこないます。また前学術集会より手探りで開始していました情報交換会なども、感染拡大防止を留意したうえでコロナ以前の規模で開催したい所存です。新しくなりました長崎の地で皆様とお会いできることを心よりお待ちしております。

2023年9月吉日

## りんしょう犬さん LINE スタンプ



りんしょう犬さんスタンプ  
購入サイト

りんしょう犬さんLINEスタンプの検索方法

LINE → フォレット → スタンプショップ



「りんしょう犬さん」を検索  
検索結果 → 「クリエイターズ」を選択

<https://store.line.me/stickershop/product/8679516>

※ 収益が発生した場合は全て「臨床検査」の重要性を  
社会に伝える活動に使用させていただきます

## 臨床検査に育てられ、仲間と奮闘した半世紀

昭和大学名誉教授

高木 康

臨床病理学(臨床検査医学)に足を踏み入れて半世紀が過ぎようとしています。長いようで短い時間の流れのなかで、「我が臨床病理(臨床検査)の足跡」を振り返る機会を与えて下さり、感謝します。こんな臨床検査専門医もいるのだと感じていただければ嬉しい限りで、休憩時間にお読みください。前6人のようなアカデミアではなく、実学としての臨床検査医学の過去の栄光と現在の立ち位置も加えて、筆を執ることにします。

### 最初は腰掛のつもり

1976(昭和51)年昭和大学医学部を卒業して、はてどの道に進もうかと迷っていた。臨床診療科に行く道も考えたが、人生いたるところにキーパーソンがいるようで、バレー部の先輩に、「今からは臨床検査が診療では重要になる。臨床に行くにしても臨床検査を学んでからでも遅くはない。大学院生になって研究するのも良い」との囁きが一生を決めてしまった。当時は、臨床検査は黎明期であり、その重要性が認識され始めた時期であった。確かに、患者診療を行うのに臨床検査を知っておくことは重要なことであり、しかも臨床病理学教室を主宰していたのは、真摯で学者然としているがどこかヒトを引き付ける魅力のある石井暢教授であった。総勢7名の小さな教室であったが、4人目の大学院生として入局した。居心地は良く、しかも臨床検査部を統括しており、お山の大将でもいられたので、楽しい大学院生活を送ることができた。

石井教授は、「臨床病理学教室は研究と教育は他の診療科と同じですが、診療は臨床検査であり、精確な臨床検査成績を医師や患者に届けるのが日常診療です」とのお考えから患者診療は行わずに、臨床検査に特化した教室運営を行っていた。

臨床検査に精通するために、大学院生を含む入局者は、血液検査室、血清検査室、生化学検査室、細菌検査室を約3ヵ月かけてローテーションし、それぞれの検査室の日常業務を身に着け、検査技師と同等の技能を修得することを義務付けられた。そして、自分に合った検査室の担当となるシステムであった。筆者はまず血清検査室をローテートした。血清検査室は筆者を臨床病理に誘導した先輩が担当しており、未熟な医師を温かく処遇してくれる古き良き時代の雰囲気の良い検査室であった。梅毒血清検査、CRP(当時は毛細管法で実施)、血液型検査・交差適合試験等の血清検査を実体験し、血液型試験・交差適合試験は技師並みの技量であった(と考えていた)。血液検査では、ローテートする前に上級医からディスカッション顕微鏡で塗抹標本のイロハを伝授され、検査室では検査技師に交じって日常検体標本を判読し、分からない細胞は上級技師に教えを乞うた。また、骨髓塗抹検査のコメントは新谷和夫博士(関東通信病院検査科)が行っていたが、その下書きを担当し、年間200件超の骨髓検査標本を判読し、標本の内容を記載し、新谷先生が塗抹標本からの診断を記載した。新谷先生からはその時々血液検査の最新の知見・細かな判別点などについてお教えいただき、それ以降は血液検査室の担当となった。

生化学検査は石井教授の専門分野であったので、新しい検査を新しい測定法・装置で測定しており、当時は画期的であったLKB 8600による初速度測定法(レート法)を紫外部で測定し、反応曲線に罫線を引いて340nmでの吸光度の減少・増加を計算して、酵素活性値を算出する方法を検査技師が行っていた。生化学検査室には毎日500件近くの検体が集まり、当初は検査技師が1つずつの検査を受け持ち、用手法で検査していた。入局してすぐに自動分析装置(日立708)が導入され、新規項目の

検査を実施できる体制を築くことができた。

生化学検査室では試薬・装置の検討に必要な残余血の収集法を学んだ。当時は残余血の試薬・装置検討の利用に対するコンプライアンスはそれほど厳しくなく、残余血は比較的容易に準備できたが、検査済みで検討に利用可能な検体の抽出法について主任から厳しく仕込まれた。「あくまでも検査が優先ですから」と言われ、それでもできるだけ新鮮な残余血の収集法を伝授された。石井教室には新規の検査試薬・装置の基本的・臨床的検討の依頼が多く、1年に5~6個の検討を行った。この試薬・装置の検討結果を論文としてまとめる作業は後日の博士論文の作成時に大いに役立った。原稿用紙にダブルスペースで書いた論文を石井教授に提出すると翌日か翌々日には修正点が明示された原稿が返却されたので、追加検討が必要な場合はこれも追加して修正して提出した。数回の原稿の往復で全ての文章を暗記できるくらいになり、研究論文、石井先生の文章の書き方を知らない間に修得できたように思う。石井先生からは、「受け取った原稿は一両日中には修正箇所を明確にして返却しなさい。長い時間、手元に置いてはいけません」と厳しく指導された。その後は手元に届いた論文はご指導のように対応したつもりであったが、長い間手元に留め置いた原稿も少なくなく、赤面の思いであった。

### 臨床検査の仲間・同期生に恵まれた

昭和40~50年代の臨床病理学会は東京の3私立大学(順天堂大学、日本大学、昭和大学)を中心に回っていると言っても過言ではなかった。昭和36年に小酒井望博士により順天堂大学、38年に土屋俊夫博士により日本大学、そして39年に石井暢博士により昭和大学医学部に臨床病理学教室が開講された。これら3教室には主宰者の人徳と学問的業績を慕って多くの門下生が入局した。順天堂大学には只野寿太郎、森三樹雄、猪狩淳、伊藤藤一、水口國雄、日本大学には櫻林郁之介、中野榮二、桑島実、熊坂一成、土屋達行、村上純子、そして、昭和大学には五味邦英、細谷純一郎、千住紀等が在籍して、臨床病理(臨床検査)の研鑽を重ね、後日学会の中心人物として活躍した。その他にも日本医大の皆川彰、東京医大の池松正次郎、佐守友博、福武勝幸、慈恵医大の町田勝彦などとは「同じ釜の飯を食った」仲間のように付き合い、臨床病理学を切磋琢磨できたのは非常に光栄であった。

これらのなかで日大の熊坂君(熊さん)、土屋君(達ちゃん)とは40年近くの親密な付き合いとなり、実学として臨床検査とともに歩んだ。両君は血液検査でのFAB分類での我が国の先駆者として、その導入と啓発に大いに貢献した。両君はオモテ(個性的)とウラ(ステレオタイプ)の関係のように、お互いがフォローしあって日大の、我が国の臨床検査を牽引してきたと言えよう。今では多くの検査医学教室に設置されている臨床検査に対する「On Call Conference、検査に関する質問とその対応」の導入、R-CPCの導入と臨床検査学の臨床実習の基本システムを構築、医学教育カリキュラム設定手法を用いた臨床検査室の改善・改良システム(GLMワークショップ)の導入等にリーダーシップを発揮し、実学である臨床検査へ大いに貢献してきたと考えるのは筆者だけであろうか?

認定医制度による臨床検査医の最初の認定医試験が行われたのは1984(昭和59)年である。両君はこの認定医試験の第1回の受験生であり、見事に合格した[筆者は過渡的処置の適応を受け(石井教授からの推薦もあり)、研修登録して認定となったが、両君はことあるごとに認定試験の合格者であることを誇っていた]。臨床検査は広範囲であり、全ての領域に精通することはやさしい事ではない。このため、認定医として最低必要な事項を認定医試験と関連付けて1985(昭和60)年に始まったの



が「教育セミナー」である。日大で「輸血と血液型検査」、順天堂大学で「微生物検査」、昭和大学で「生化学検査とサンプリング」を担当して、毎年開催した。臨床検査専門医試験は数少ない実習をベースにした試験であり、このことは専門医機構でも高く評価されている。「教育セミナー」を実技試験の形式で行うのにその準備は並大抵ではない。当時は一人でも多くの検査専門医を育成する、仲間を増やすという熱き血潮で頑張った。検体管理加算に関連して病理医が臨床検査医認定試験を受験した1995～2000年での「教育セミナー」では「病理学会ではこのような後輩思いのセミナーは開催されていません。臨床病理学会が羨ましいです」との言葉をよく耳にした。この時期には毎年50名近い受験生(1997年43名、98年41名、99年55名、2000年51名)であり、このまま継続すれば念願の1,000人となることを夢見ていた(厚労省等は医療施設に常勤する専門医を設置するには最低1,000名が一応の目安と考えていた)。

### 検査の標準化と検査値の互換性

臨床検査の標準化、検査値の互換性の保証は臨床検査に籍を置く医師・関係者に課せられた命題である。「日本専門医機構」で、専門医の再構築が行われた2000年前後に、「臨床検査医学とは何か。一般人にも分かるような定義を考えてください」との質問に対する専門医機構とのヒアリングで機構委員から出た言葉は今でも忘れることができない。「診療科での重要な臨床検査の項目の選抜は各学会が行いますので、臨床検査医学会では、精確な検査成績を診療科に返却することが業務ではいかがですか。新しい検査項目は診療科と協働して開発しますが、検査法は臨床検査医学会で開発・改良をお願いします。」とのコメントであった。当時は東京医大をはじめとする少なからぬ臨床検査医学講座で日常診療を行っていたが、臨床検査医学に求められているのは、検査の標準化と精確な検査値の患者・臨床への返却であることをダイレクトに言われ、驚愕するとともに周囲・国民はこのことこそが臨床検査医学と考えていることを改めて問いただされた。

そして、『臨床検査専門医は臨床検査(血液や尿などを対象とする検体検査と心電図などの人体・生理機能検査)に関する専門的医学知識と技能を有し、臨床検査が安全かつ適切に実施できるよう管理し、医療上有用な検査所見を医師・患者に提供する医師です。新たな臨床検査の研究および開発を行うと共に、臨床検査医学の教育に従事する医師です。』を臨床検査医学会として専門医機構に提出した。現在のHPにも『臨床検査医とは、検査室を管理するとともに、検査にかかわる診断業務を行う医師です。検査技師の方々と協力して、検査を適切に実施し、正確で精密なデータを返却できるよう努力しています。日常診療では、「正確なデータが返ってくるのが当たり前」と思われているかもしれませんが、それは検査部医師・技師の日々の努力のたまものなのです』としており、「精確な検査データ・互換性のあるデータ」は日常診療上極めて重要であり、この保証をするのが検査専門医の重要な業務の1つであることを現在に生きる検査専門医は再考してほしい。

我が国には、日本医師会、日本臨床検査技師会、日本衛生検査所協会、全国労働衛生団体連合会、日本人間ドック学会、各自治体主催の精度管理調査委員会がある。これら委員会のどこかに籍を置き、国・地域の臨床検査の精度管理、検査施設での標準化・互換性の確保の中心的な役割を果たしてほしい。

### 今後の臨床検査医

#### —診療支援に積極的に関与する臨床検査医—

臨床検査医の業務の1つに「診断支援システム」がある。多くの臨床検査医はシステムの違いはあるが少なからずこの領域で

活躍している。2023年6月に開催された日本臨床検査専門医会第2回年次集会での米川修博士が電子カルテの導入により臨床検査医(検査室)が行う診療支援の具体例を発表した。

『「診療支援システム」は、担当医の依頼による検査の結果が検査室で定めた異常値に1項目でも該当すれば、その日依頼された全検査項目がプリントアウトされる仕組みになっています。それを臨床検査科医師と検査技師が病態解析し、必要に応じて追加検査を実施、その結果を踏まえて担当医へ電話連絡したり、コメントをカルテへ入力したりします。検査データに異常があれば、臨床検査科医師・担当医・検査技師の三者が確認し、迅速的確に対応します。「診断支援システム」は、検査データの確実な確認に加え、検査データそのものを評価することで患者さん自身に自覚のない異常を早期に発見できるメリットもあり、担当医師の診療の補助と「医療の質」の向上につながっています。』

従来から臨床検査医が個人的に特定の診療科で臨床検査成績に関わってきた。しかし、現在では診療システムとして臨床検査医が関与することが期待されている。チーム医療が叫ばれて久しい。また医師の働き方改革が推進されている現在、検査室の医師・技師が患者の臨床検査データに対して責任を持つ時代になった。熊さんの「On Call Conference」の受け身での検査相談の時代から臨床検査データからの診療への積極的参加が令和時代に求められている。電子カルテ・ITの診療現場での使用拡大により、臨床検査医(臨床検査技師)が診断支援の現場に登場することが可能な時代となったのである。ただし、これら底流には「精確な検査データを患者診療に返却する精度管理の一層の充実・向上」が必要不可欠であり、その総責任者も臨床検査医であることを忘れないでほしい。

### 人生はヒトとの出会い、素晴らしい出会いでした —尊敬できる師、相談できる同期生—

臨床検査の領域に足を踏み入れてはや半世紀が過ぎようとしています。昨今はヒトとの出会い・邂逅の不思議さを実感し、新しい診療支援の現場である臨床検査に身を置いた半世紀の恵まれた環境に感謝しています。後輩の皆さま、諸君の未来を輝けるものにするには、現実を直視し、ヒトとの出会いを大切に、臨床検査を「業」とする仲間を増やしてください。仲間から情報を得、仲間と一緒に考え・行動することで、臨床検査医学は第二の黎明期を迎えるものと確信しています。ご健闘をお祈りしています。

事務局だより

### 【事務局からのお知らせ】

#### 【会員動向】

2023年10月1日現在数634名、専門医527名

#### 【所属・その他変更】(敬称略)

- 山崎 悦子 旧：横浜市立大学附属病院臨床検査部  
新：横浜労災病院血液内科
- 藤井 智美 旧：奈良県立医科大学病院病理診断学講座  
新：大阪大学感染症総合教育研究拠点(CiDER) 人材育成部門
- 中山 淳 旧：信州大学医学部分子病理学教室  
新：北アルプス医療センターあづみ野病院病理診断科
- 五十嵐雅彦 旧：山形市立病院済生館糖尿病・内分泌内科  
(兼)地域糖尿病センター  
新：公立高島病院内科

羽瀨 義純 旧：医療法人ほうゆうりハビリテーション病院  
新：宇治りハビリテーション病院

#### 【退会会員】(敬称略)

斉藤 仁昭：茨城県立中央病院 茨城県地域がんセンター  
病理診断科

#### 【第40回臨床検査専門医認定試験結果】

2023年8月7日に日本臨床検査医学会主催の第40回臨床検査専門医認定試験が帝京大学霞が関キャンパスで行われ、6名が合格されました。

(50音順/敬称略)

大島 恵、桐越 博之、谷口 寛、三ツ橋 雄之、山澤 稚子、若松 弘之

同日に第3回日本専門医機構基本領域臨床検査専門医認定試験も併せて実施され、下記8名が学会審査で合格となり、9月に行われた専門医機構の二次審査を経て正式に機構専門医として承認されました。

太田 諒、加藤 寿光、川崎 理加、川村 良一、高門 美沙希、高田 康徳、西野 貴大、松永 絢乃

先生方、合格おめでとうございます。今後のご活躍を期待します。

なお、上記両試験の合格者は全員が日本臨床検査専門医协会会员で、14名中13名は事前に本会教育研修委員会主催、2023年度第92回教育セミナーの受講者でした(1名は前年度受講者)。

#### 【「こども霞が関見学デー」参加報告】

コロナ禍で、開催自粛もしくはオンライン開催とされていた、厚生労働省「子ども霞が関見学デー」が、今年8月2日、3日の2日間、霞が関中央合同庁舎にて、4年ぶりに対面開催となりました。専門医会は日本臨床検査振興協議会主催のブースに共催というかたちで参加いたしました。広報ネットワーク運営委員会委員長 尾崎先生、イベント部門 西川先生をはじめ、都内近郊の専攻医の先生方にご協力いただきました。「うんちやおしっこ・血液を検査するとなにがわかるかな? ~白衣を着て臨床検査を体験しよう!! ~」というテーマで、映像、模型説明を通して、検査について体験と学びを提供しました。計2日間のイベントで、700名を超える来場者があり盛況のうちに終了しました。ご協力をいただいた先生方ありがとうございました。



#### 【臨床検査振興セミナー開催報告】

今年度、第40回臨床検査振興セミナーは、7月22日(木)～8月10日(木)、オンデマンド配信のかたちで開催いたしました。講演1は「ISO15189の動向と今後の展開について」(人見 博也講師：積水メディカル株式会社 検査事業部 営業推進室 LCC マネージャー)という演題で、ISO15189取得後、維持をしていくためのポイントなどについて、日本適合性協会においてISO15189の上席主任審査員として活躍された経験を生かしたご講演でした。講演2は「人由来試料の利用ー英国の経験からいえること」(佐藤 雄一郎先生：東京学芸大学 准教授 日本臨床検査医学会倫理委員会外部委員)と題し、生体由来のものを臨床検査の精度管理に用いる場合と研究で用いる場合の倫理的な考え方や対応の違いなどについて講演し

ていただきました。参加申し込みは計149名で、そのうち約1/4は賛助会社ご所属の社員の方でした。お時間の都合で、実際にご視聴をいただけなかった方もいらっしゃったことは残念ですが、それぞれ専門医更新のための受講証も発行させていただきました。

来年は久しぶりに対面での開催を企画しております。詳細が決まりましたら随時、ホームページやJACLaP NEWSで紹介してまいります。

#### 【今年も全国検査と健康展に協力いたします】

本年も日本臨床衛生検査技師会主催の全国「検査と健康展」にて、依頼を受けました全国10会場に計12名の医師を派遣し、共催を予定しております。主に、健康相談・検査説明を担当いたします。おかげさまで今年は早々に先生方が手をあげてください、依頼された全地域のご出務者が確定しております。来年以降、開催を再開する地域が増えてくることも予想されます。募集をさせていただいた際にはぜひご協力をお願いいたします。ご協力いただいた先生方には参加証明書をお渡しします(臨床検査専門医更新基準での更新単位1単位となります)。

今年度の開催日程は下記となります。近隣の方にご案内をいただけますと幸いです。

- 11月11日：秋田会場(イオンモール秋田)  
京都会場(イオンモール京都桂川)  
広島会場(紙屋町シャレオ中央広場)  
埼玉会場(浦和駅西口コルソ)
- 11月12日：宮城会場(イオンモール名取)  
滋賀会場(中央会場：イオンモール草津)
- 11月19日：福島会場(イトーヨーカドー郡山店)  
23日：大分会場(あけのアクロスタウン)
- 12月3日：岐阜会場(マージ)  
17日：神奈川会場(横浜新都市プラザ)

#### 【広報ネットワーク運営委員会： 11月11日記念日つなぎ委員会より】

「臨床検査の日」である11月11日は日本で2番目に「記念日」が多く制定されています。同じ日に記念日を持つ、下記4社と2021年から共同でPRを行っております

- ・ピップエレキバン「磁気の日」
- ・やおきん「うまい棒の日」
- ・マルタイ「棒ラーメンの日」
- ・すみだ水族館「チンアナゴの日」

2023年度も上記4社と共同で「11月11日記念日合同X(旧Twitter)キャンペーン」を行います。

XのURLは下記になります。

<https://twitter.com/1111tsunagi>

QRコード



このキャンペーンでは、各社のグッズ詰め合わせ(11種類)を11名の方にプレゼントいたしますので、是非、リポスト(フォロー)や、周囲の方々への周知等で本活動を応援いただけますと幸いです。なお、閲覧するには、Xのダウンロードが必要ですのでご注意ください。

なお、Xには10月11日～11月12日まで参加各社がつぶやきます。当会は、土日祝につぶやき、検査と健康展の様子をお届けする予定にしております。是非、いいね、リポスト、引用などよろしくお願い致します。

また、「臨床検査の日」当日の11月11日(土)には、東京スカイツリー併設の、東京ソラマチイベントスペースにて『つな



ぎの日イベント』が開催されます。こちらでは、先着 500 名の方にプレゼントがあり、本会も参加を予定しています。詳細が決まりましたら上記 X(旧 Twitter)」にてご案内いたします。

### 【2023 年度一般社団法人日本臨床検査専門医会臨時総会・講演会のお知らせ】

2023 年度一般社団法人日本臨床検査専門医会臨時社員総会・講演会は第 70 回 一般社団法人日本臨床検査医学会学術集会(長崎)時に以下の日程で開催予定です。

開催日時：2023 年 11 月 16 日(木) 総会 13:00～13:30  
講演会 13:30～14:30  
(出島メッセ長崎 2 階 コンベンションホール 3)

講演会「長崎県の離島医療について」

座長：山田 俊幸 (自治医科大学臨床検査医学)

演者：一宮 邦訓 (長崎上五島病院)

現地開催およびオンデマンド配信を予定、専門医共通講習(地域医療)1 単位に認定されています。

### 【第 70 回一般社団法人日本臨床検査医学会学術集会(長崎)関連行事】

第 70 回一般社団法人日本臨床検査医学会学術集会は 2023 年 11 月 16 日(木)～19 日(日)に出島メッセ長崎で開催されます。今回も日本臨床検査医学会と共催のかたちでシンポジウムを行います。昨年までは教育研修委員会が企画・開催を担当していましたが、今年から委員会を超えて専門医会として企画・開催を提案することになりました。以下の通り予定しています。

開催：11 月 18 日(土曜日) 14:40～16:40

(シンポジウム 9：出島メッセ長崎 第 4 会場)

テーマ：「近未来の臨床検査の情報共有と患者還元・社会貢献。その期待と課題」

座長：山田 俊幸(自治医科大学 臨床検査医学)

松下一之(千葉大学医学部附属病院)

演者：堀田 多恵子(九州大学病院 検査部)

末岡 榮三郎(佐賀大学医学部 臨床検査医学講座)

渡邊 広祐(東京大学医学部附属病院)

平田 真(国立がん研究センター中央病院 遺伝子診療部門)

現地開催およびオンデマンド配信を予定、専門医領域講習 2 単位に認定が予定されています。

### 【2023 度行事予定】

本年度の行事予定についてお知らせします。

11 月 11 日(金) 臨床検査の日

全国検査と健康展(11 月～12 月)

11 月 16 日(木)～19 日(日)

第 70 回一般社団法人日本臨床検査医学会学術集会(長崎出島メッセ)

11 月 16 日(木) 第 6 回理事会・2023 年度一般社団法人

臨床検査専門医会

臨時社員総会・講演会

2024 年

3 月 23 日(土) 第 7 回理事会

### 【2024 年度 第 3 回年次大会】

大会長：尾崎 敬(紀南病院中央臨床検査部)

期日：2024 年 6 月 29 日(土)～30 日(日)

会場：紀南看護専門学校・4 階 講堂(体育館)

(紀南病院敷地内)

テーマ：「臨床検査・研究・そしてワークライフバランス」

今回会場となる病院がある、熊野地方を代表する偉人、南方熊楠。その研究は博物学、細菌学、植物学、民俗学…と多岐に渡り、『ネイチャー』誌に 51 本の論文が掲載されており、これは現在に至るまで単著での掲載本数の歴代最高記録となっています。熊楠は大学人でもない、地方の研究者です。彼は日本人らしく研究と人生を謳歌し、業績を残す一方、熊野地方を愛し、自然保護活動の先達ともいわれる活動をしました。現在、地方で、頑張っている多くの日本人に、「何か」を与えることができる人物だという思いから、テーマやポスターに起用されています。懇親会では、記念館館長による講演会も企画されています。ぜひ和歌山へ足をお運びください。

第 3 回年次大会のホームページがオープンいたしました。

本会ホームページもしくは右記 QR コードからご確認ください。



### 【2023 年度会費振込のお願い】

本年 4 月に 2023 年度の会費振込用紙をお送りしました。お納めいただいていない会員の方は振込をお願い致します。

2023 年度年会費：10,000 円(2023 年 4 月 1 日現在、70 歳以上の方は 5,000 円)

銀行名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店(ゼロイチキユウ店)

預金種目：当座 口座番号：0020509

口座名：一般社団法人日本臨床検査専門医会

シャ)ニホンリンショウケンサセンモンイカイ

ご自身の振込み状況が不明な先生は、事務局まで E-mail または FAX でお問い合わせ下さい。

### 【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知およびメールアドレスの登録のお願い】

住所・所属の変更にもなって定期刊行物、JACLaP WIRE、電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。勤務先、住所および E-mail address 等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせ下さい。変更事項はホームページから【会員情報変更届】をダウンロードしてそれに記載し、FAX あるいは E-mail でお送り下さい。

なお、本会では、JACLaP WIRE の配信を含め、セミナー等会員様への有用なお知らせを必要に応じメール配信しております。E-mail address のご登録がお済みでない先生は、同様にお知らせくださいますようお願いいたします。

<連絡先>

一般社団法人日本臨床検査専門医会

事務局(水・土日祝祭日は休業日)

電話：03-3864-0804 FAX：03-5823-4110

メールアドレス：senmon-i@jaclap.org

### 【会員の声：次世代の臨床検査専門医】

検査専門医となって一これまでとこれから一

埼玉医大総合医療センター輸血部

久保田 寧

日本臨床検査専門医会の皆さま、はじめまして、埼玉医科大学総合医療センター 輸血部の久保田 寧と申します。昨年、

日本臨床検査医学会臨床検査専門医に認定していただきました。2020年に認定試験の受験資格は得ていたものの、同年はコロナ禍のため受験を見送り、2021年は7月に前任地(佐賀大学)から埼玉医大へ異動したばかりで受験を延期していただき、3度目の正直(?)でようやく受験に漕ぎつきました。

私は1997年に佐賀医科大学(現・佐賀大学医学部)を卒業し、内科研修の後に血液内科を専攻しました。医師になって5年目、熊本で同種造血細胞移植を重点的に学ぶうちに、造血幹細胞の自己複製に対する強い関心が生まれ、2003年、京都大学大学院(分子遺伝学、後に幹細胞研究学：西川伸一先生)に入学し、理化学研究所(神戸)において基礎研究に従事しました。実験は、フローサイトメトリー (FCM) を駆使してマウス骨髄中にわずかに存在する造血幹細胞をソートすることから始まりました。こうして体外に採りだした細胞が真の造血幹細胞であるか証明するためには致死量放射線照射を受けたマウスに移植して造血を長期間再構築できることの確認が必須であり、神戸での7年間はFCMと骨髄移植に明け暮れたといっても過言ではありません。おかげでマウス尾静脈からの注射は得意になり佐賀大学に戻った後も後輩達の実験で移植が必要な場合には駆り出されましたが、最近では老眼がすすみ、つらくなってきましたので世代交代の必要性を実感しています。

骨髄像の美しさに魅かれたことが血液内科を専攻した理由のひとつで、骨髄細胞カウントのため頻りに検査室に出入りしていたことや、基礎研究を通じてFCMが半ば趣味のようになってしまい、FCM担当の技師さんとのdiscussionが楽しみでしたので臨床検査部はとて身近なものでした。佐賀大学臨床検査医学講座教授の末岡榮三朗先生(現在、医学部長)は血液・腫瘍内科出身の先輩でもあり、細かいことは何も言わず自由に出入りさせていただき、技師さんを筆頭著者としてFCMを中心とした英語論文も書けました。

現所属となつてからは、輸血部の他、血液内科も兼任として関わっています。主に末梢血幹細胞採取や輸血部実習に従事する傍ら、血液内科医として造血器疾患全般の診療や日本骨髄バンク移植認定施設責任医師として若い先生方とともに移植も行っています。中央検査部への関わりとしては、毎月の会議に参加させていただき検査部内の種々の事柄(精度管理やインシデントなど)についての議論を拝聴し、勉強の日々です。血液内科の患者さんも非常に多いので検査件数もとても多く、中央検査部・部長の竹下享典教授のご協力を仰ぎつつ、なにか面白い臨床研究ができないか思案しているところです。

膨大で多様な検査データを用いた臨床病態解析や、今後ますます増えていくがんゲノム医療において臨床検査専門医の果たすべき役割は大きくなるばかりだと思いますし、私の専門である血液内科領域でも、造血器腫瘍パネル検査が近く導入されるといわれています。造血器腫瘍では治療のひとつとして

同種造血細胞移植があり、健康人ドナーの遺伝情報マネジメントが必要な場合も出てきます。これらの全てに、「血液・腫瘍内科、輸血・細胞治療、移植認定医の臨床背景を持つ検査専門医」として力を発揮できればと思います。

今回の検査専門医取得は臨床検査“道”のスタートであり、日々研鑽を積んでまいる所存です。そして、臨床検査医学会には様々なバックグラウンドを持った先生方がおられますので、これからたくさん交流させていただき、臨床検査医学の発展に多少なりとも貢献できましたら幸いです。最後になりましたが、専門医試験を受けるにあたってご指導下さった竹下先生、臨床検査技師の方々にこの場を借りて感謝申し上げます。

#### 【編集後記】

2023年5月よりコロナウイルス感染症は5類感染症に格下げになり様々な国の補助が減少していく中、コロナウイルス・インフルエンザウイルスなど感染症が流行しそうな冬に入ってきました。通常の臨床検査・感染症対策・ガンゲノムなど臨床検査専門医は多方面に活躍できる良い土壌になりつつありますが、フレッシュな医師が不足している現状であると思います。今後の臨床検査の活路は、若手医師の勧誘に依存している可能性もあります。SNSやレジナビなど様々なツールを用いて、幅広い医師を臨床検査専門医に導くことができると考えています。

今号は、巻頭言に2023年11月16日より長崎で行われる日本臨床検査医学会学術集会長の柳原克紀先生にご執筆いただき、臨床検査医学への提言を2023年学会賞 功労賞：河合忠賞を受賞される高木康先生にご執筆いただきました。専門医会の先生方には、ぜひ長崎の現地で学会にご参加いただき、専門医会の企画でお会いしたいと考えております。最後に高木先生の河合忠賞の受賞おめでとうございませう。さらなるご発展をお祈りいたします。

(東海大学医学部臨床検査学 後藤 和人)

#### 会員の皆様へ

広く「会員の声」を募集しております！  
テーマは自由、文字数も自由です。  
是非ともご意見をお寄せください。

#### 【テーマの例】

- ・自己紹介や検査室のご紹介
- ・様々な技術・ご経験のご紹介

投稿方法：日本臨床検査専門医会事務局  
まで、メールにてお送りください。  
E-mail: [senmon-i@jaclap.org](mailto:senmon-i@jaclap.org)

一般社団法人 日本臨床検査専門医会

理事長：谷直人、副理事長：山田俊幸

常任理事：村上正巳(庶務)、増田亜希子(会計)、田部陽子(資格審査・規定改定委員会委員長)、幸村 近(渉外委員会委員長)、

福地邦彦(情報・出版委員会委員長)、松下一之(保険点数・データシステム委員会委員長)、尾崎 敬(広報・ネットワーク運営委員会委員長)、

鯉淵晴美(教育研修委員会委員長)

理事：藤井 聡、植木重治、浅井さとみ、山田鉄也、山崎正晴、北中 明、橋口照人

監事：東條尚子、菊池春人

情報・出版委員会：

委員長：福地邦彦

委員：出居真由美、井上暢子、後藤和人、吉田 博、金子 誠

一般社団法人 日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番地 第3東ビル908号

TEL: 03-3864-0804 FAX: 03-5823-4110 E-mail: [senmon-i@jaclap.org](mailto:senmon-i@jaclap.org)